

## 韓 国 語

### 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

平均点は、昨年より上がって147.5点であった。第3問～第5問は、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」にとって適切な難易度であったので、韓国語母語話者や民族学校出身者が多い特殊な受験者層を持つ「韓国語」の平均点が上がったのであろう。

さて、来年度以降大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）ではなく、「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」という。）と名称が変わる。名称を変えたのは、高等学校学習指導要領（以下「指導要領」という。）にある「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」ことを目指し、「知識の理解の質や思考力、判断力、表現力」を発揮して解いているかを評価するための出題が今まで以上に求められたからであらう。「実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定」をより重要視するようになると言える。そのため、英語においては、第1問の発音・アクセント、語句整序問題は単独で出題されないこととなった。これは、韓国語においても、例年指摘している、知識や技能だけを問う問題となってしまっている第1問の形式を変える良い機会でないかと思う。以下に記すように、「共通テスト」以降は、現行の第1問のような形式を改善し、実際のコミュニケーション能力を測れるように出題されることを切に願う。

例年どおり本委員会では、平均点を基にした評価は行わず、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度の基準として、中級水準となる、韓国語能力試験（TOPIK）のⅡ（3～4級）及び「ハングル」能力検定試験の3級～準2級を想定していることをここに明記する。

#### 2 試験問題の内容・範囲等

本項目では、前文の「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、第1問～第3問については、良問とは言えないものを中心に取り上げることとする。

##### 第1問

##### A 発音に関する問題

学習範囲内の語彙、発音規則ではあるが、発音だけを問う出題形式ではなく、文章の中から出題するなど工夫が欲しい。

##### B ハングルの表記を問う問題

発音が同じ、または、似ている語彙の表記を問う問題。問1と問3は学習範囲外の語彙があり、良問とは言えない。問2は、学習範囲内の語彙ではあるが、知識のみを問うこのような問題が、コミュニケーション能力を重視した指導要領に沿った出題か疑問が残る。

##### C 漢字の音に関する問題

漢字を不得意とする韓国語母語話者にとっては、難易度が高いが、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」にとっては解きやすい問題であり、学習範囲内の語彙である場合は良問と言える。「荊手」が学習範囲外の語彙ではあるが、「選差」等、他の学習範囲内の語

彙で類推できれば解ける問題。ただし、漢字のみを提示するのではなく、文章の中から出題するなど工夫が欲しい。

## 第2問

### A 同音異義語、慣用句を問う問題

学習範囲内の語彙である。

### B 用言の活用の知識を問う問題

問1の「따갑다」問2の「두르다」は学習範囲外の語彙で良問とは言い難い。例年の指摘どおり、文法の知識のみを取り出して作問するのは、コミュニケーション能力中心の外国語教育において甚だ疑問であり、対話文や長文の中で問う等の工夫が欲しい。

### C 適切な助詞、語尾、語彙を選択する問題

学習範囲内の語彙や文法であるが、Bと同様、工夫が欲しい。

### D 類似した意味を問う問題

問4の「-락」、 「-으락 말락」は学習範囲外の語尾で良問とは言い難い。

### E 日本語から韓国語への翻訳で、語彙力、文法力、表現力を問う問題。

直訳では不自然な韓国語となり日本語の国語力も問われる問題である。全て学習範囲内の語彙で良問である。

## 第3問 会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選んだり、会話文の内容を把握したりする問題

### A 短い会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選び、会話文を完成させる問題

学習範囲内の語彙、表現で良問である。

### B 比較的長い会話文を読んで、会話全体の内容等を問う問題

前回同様、Bにはイラストを使い、2名による会話文とポスターの記載内容からシェア自転車の使用法等に関する情報を読み解く問題。自動車や自転車を個人で所有するのではなく、地域の住民がシェアしながら利用するのは、持続可能な社会を構築する上で有効であるとされており、高校生にとって日常的且つ教育的なテーマである。さらにポスターの内容を、「よくある質問に対する答え」として提示することで、複雑な利用方法を分かり易く伝達している。今までの課題文にない形式で、課題文、設問ともに難易度も適当で、良問であると言える。

### C 比較的長い会話文を読んで、会話全体の内容等を問う問題

高校の職員室に卒業生が訪ねて来るシチュエーションで、教師と卒業生との会話文である。高校生の日常に沿った内容で、語彙の難易度や表現も分かり易く良問であると言える。

## 第4問 施設の定期点検のため一時停電する旨を伝える案内文。日常的な社会活動に必要な情報を読み取る能力を問う問題。案内文を提示するだけでなく、その案内文を見た親が子供に連絡をするという展開も、実際の言語活動を想定しており、作問者の工夫が見て取れる。語彙、表現とも適当で良問と言える。

## 第5問 幼少期に文字を学ぶ機会が無く、年老いてからハングルを学び始めたお婆さんと大学卒業間近の若い教員とのやりとりを描いたエッセイ。韓国内の現代社会のある断片を捉えた文章で、語彙・表現・分量とも学習範囲内で適当な問題であると言える。毎年同様の文体で、韓国社会を描いたエッセイが課題文として出されるが、授業における教材として利用することも可能で、総じて良問である場合が多い。

## 第6問 さて、第6問の長文の内容について考えてみる。テーマは、20世紀初頭～中盤にかけて英領インドにおいて起こったガンディーの非暴力運動についての論考である。まずは、課題

文の全訳を読んでみていただきたい。

- (1) 非暴力主義と糸車 - ガンディー思想の根本を理解することにおいては、一見何の関係もないようなこの二つの関係を明らかにする必要がある。非暴力主義は、当時インドを支配していた英国当局に相對する闘争の原則であり、その方法の一つが糸織である。英国から輸入される織物を買わず、糸車を利用する伝統的な生産方法で生地を自ら作るというものである。しかし、非暴力主義を、英国の支配に抵抗する政治的な手段として、糸織を英国の工業製品からインドの産業を保護しようとする経済的活動としてのみ解釈するのであれば、それはあまりにも単純で表面的な理解である。
- (2) ガンディー思想の中心である非暴力主義は、この世界を支配する原理を愛として把握している宗教的、哲学的伝統に根を下ろしている。それは、暴力に抵抗しないという消極的なものではない。悪を悪で返すのではなく、愛で返さなければならないという実践的な行動であった。そのため、正しい解放とは、単に外国の支配者を追い払うことにとどまらず、支配の構造を壊し、そこに慣例化した心理的習慣と欲望を根本から変える活動であるとした。
- (3) ガンディーが考えた最も大きな暴力は、人間の魂の奥深くから出て来る要求は見返さず、物質的利益の拡大だけを追求する西洋の産業文明であった。近代産業文明は、絶えず利己心を刺激し、人を金と物質の奴隷に墮落させる一方、自身を顧み、内的な平和を得る生活を不可能にする。それに因り、ヨーロッパの労働階級にとって世の中は地獄になり、他の地域の数多くの民衆は帝国主義下でもがきあえぐようになったというものである。
- (4) ガンディーは、人間は、非暴力と愛の中で共に生きる時最も幸福であり、自己の完成を成すことができると考えた。また彼は、小農村共同体を基本単位としつつ、究極的には村の民主主義による自治が実現される空間が理想的な社会であると思った。そこには物質と権力に対する無条件的な欲望といったものはない。彼は、産業社会の複雑で巨大な機械が支配と被支配の構造、都市化、そして浪費的消費をもたらすと考え、その結果、非人間化が深刻なものとなったと考えたのである。
- (5) その反面、糸車は決して人間を疎外しない、人間的規模の機械である。ここにガンディー思想において糸車を持つ意味が現れる。ガンディーは、全てのインド人が毎日糸織をすることを勧めた。糸織の価値は、経済的な必要性以上に、彼が夢見た共同体の建設に必要な心の姿勢を育むのに適した手段であると考えた。単純であるが、生産的な糸織を経験することで、精神労働と肉体労働の分離から始まる不平等思想から抜け出すことができ、「自ら食するパンを自らの手で作る創造的な労働」の喜びを享受するようになれば、素朴な生の価値を心から肯定できるようになると考えた。
- (6) 結局、ガンディーの思想は、欲望を無理に耐える禁欲主義ではなく、今までとは根本的に異なるものを欲することができてはじめて真の幸福に到達するというものであった。こういったガンディーの主張は、経済成長の論理と便宜主義的生活に慣れきってしまった我々には空虚な考えに聞こえるかもしれない。しかし、全ての生命に害を及ぼした産業文明が、人類生存の自然的・生物学的な基礎自体を破壊するほどにまで至った今、それが本当に空虚な話としてのみ残っていくのであれば、我々の将来はどうなるのだろうか？  
いかがであろうか。まずテーマであるガンディーの非暴力主義思想であるが、高校生が触れる現代社会の教養として一般的なテーマであると、言えないわけではない。ちなみに、高校の世界史の教科書（山川出版社）を見ると「インドにおける民族運動の展開」という小項目があり、約2ページにわたり、欧米の植民地における現地民衆の抵抗運動として、ガンディーたちの活動を記述している。しかし、それはあくまでも「世界史」の教科書として扱う

場合であり、「外国語（韓国語）」の教材、もしくは課題文として適当であろうか。

現行の指導要領第8節外国語の第4款「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の中で、授業で取り扱う教材について以下のような注意事項がある。「教材については、外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化を持たせて取り上げるものとし…」とあり、上記の文章中、特に下線の部分と照らし合わせたときに、今回の課題文は外国語の教材としては適さないのではないだろうか。インドを中心とした歴史を扱ったものでなく、朝鮮半島や日朝関係を扱った歴史記述であれば、上記の内容に沿ったものになるのではないか。文中の語彙についても同様で、日常生活においてよく使用する語彙ではなく、主に社会科で使用する、難易度が高く、また抽象的な専門用語が多く見られ（「物質的利益」「心理的習慣」「利己心」「小農村共同体」「無条件的な欲望」「便宜主義」等）、必要以上に設問の難易度を上げていると言える。来年度から実施される共通テストにおける「韓国語」の長文問題は、今回のような専門性の高い文章ではなく、グローバルな社会を生きる高校生が社会活動をするときに必要となる言語活動を想定した文章であることが望まれる。

### 3 ま と め

平成14年度に始まった「韓国語」センター試験は、今年度が現制度下では最後の試験であった。全国で50万人ほどが受験する「英語」とは異なり、「韓国語」の受験者は毎回100～200名程度であった。そしてその受験者の多くは、純粹に高校の科目として韓国語を学習した高校生ではなく、韓国語母語話者や民族学校出身であった。このため、高校生の学習到達度を測定するセンター試験の目的に沿った試験内容ではなく、上記の受験者の質に合わせ極端に難易度が高くなる傾向があった。本評価委員会と問題作成部会は、この点を是正するため議論を重ねてきた。その中で、常に我々が争点としたのは「英語並み」の授業時間（週4～5時間程度）で6割解答が可能な試験問題であるかどうか、であった。今回の試験問題の内容を見る限り、第1問～第2問の出題形式や、第6問のテーマなど改善が必要なものもあるが、ある程度この「英語並み」に近づいているのではないかと思う。今後は、新指導要領の「外国語」が求める学習内容に沿って、より生徒の言語活動を反映した問題の作成が望まれる。

## 第2 問題作成部会の見解

### 1 問題作成の方針

大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）「韓国語」は本年度で19回目となるが、センター試験としては今年度が最後になる。受験者数は昨年度より減少し、平成27年度、30年度と同程度になった。平均点は過去数年間、「英語」に次ぐ低さとなっていたが、今年度は高くなり平成22年度～26年度と同程度となった。これは英語以外の外国語の中では「ドイツ語」と同程度である。問題作成の基本方針は従来と同様であり、以下の点に留意して作題に当たった。

- (1) これまでのセンター試験の試験内容に準拠する。
- (2) 高等学校教科担当教員（以下「高校教員」という。）の意見と評価を最大限尊重する。
- (3) 予想される平均点が他の外国語との間に著しい不均衡が生じないように、難易度に配慮する。  
具体的には、次のような方針によった。
  - ① 音声・文字表記、文法・語彙、会話、長文の四つの領域に分けて出題する。
  - ② 日本の韓国語教育の現場で使用されている教材、また市販されている教材と辞書類を参考に  
する。
  - ③ 表記法は大韓民国の正書法に基づき、個別の語形・表記は韓国国立国語院の『標準国語大辞  
典』に依拠する。大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国で正書法が違う場合には、原則として前  
者の方式によるが、後者の方式による教育を受けた受験者が著しい不利益を被らないように配  
慮する。

### 2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果のほか、個々の問題に関する意見についての作題側  
の見解を述べておく。

第1問 発音に関する問題、綴り字に関する問題、漢字のハングル表記に関する問題から構成さ  
れる。

Aは発音変化に関する問題である。問1は、終声に入を持つ語の後に母音で始まる自立語が後  
続する場合に、終声の入がㄷとして発音される現象と、いわゆる口蓋音化によって接尾辞ㅇ  
の前の終声ㄷがㅌとして発音される現象を問う問題である。問2は、用言の活用において連  
体形語尾ㅁの後で起きる濃音化を、語幹末のㅁの後では濃音化が起きないことと対比させて  
問う問題である。どちらも正答率は高く、比較的易しい問題であった。

Bは綴り字に関する問題である。正答率は、問1は高かったが、問2、3は低く、特に問3は  
難問であったようである。韓国語の綴りに関して語の派生や複合との関係を理解しておくこ  
とが望まれる。

Cは漢字の読みに関する知識を問う問題である。問1は同一諧声符字、問2は韓国語で同音に  
なる漢字、問3は日本語で同音になる漢字の読みを問うものであるが、問2の正答率が問  
1、3に比べて低かった。これは問2に含まれる「挙手」という語になじんでいない受験者  
がいたことによるものと思われる。

第2問 文法と語彙及び表現についての知識を問う問題である。出題に際しては、基本的な文法  
や語彙とともに、多様な意味と用法を持つ文法と語彙、連語、そして、日本語と韓国語との間  
での表現の違いなどについて学習者の間違いやすい点を考慮した。やや難しい表現もあつた  
が、全体的には識別力のある良い問題構成であった。

A 単語単独ではなく、他の語との関わりの中での使用を問う連語の問題。よく使われる基本的な表現と難易度がやや高い表現の二つの文に共通して入れることができる語を求める問題であり、識別力もある良問であった。

問1 「맛을 (味を)」「화를 (怒りを)」のどちらとも結び付くのは「내면」である。後者は基本的な表現であり、前者は若干難しい問題であるが、よく出来ていた。

問2 「안경을 (眼鏡を)」「안개가 (霧が)」のどちらとも結び付くのは「끼어서」である。大体よくできていたが、「안경을」とのみ結び付く「써서」と答えた誤答がやや多かった。

B 与えられた単語(用言)の活用形を問う問題である。変格用言の活用について正確な知識を持っているかを問うた。

問1 ㅎ変格用言の活用の誤答が正答よりも多かった。「하얗다 (白い)」は基本的なㅎ変格用言であるが、하얗という形にはなじみがなかったためか。基本的なㄴ語幹用言である「멀다 (遠い)」の活用が分かっていない誤答もやや多かった。

問2 ㄹ変格用言とㄷ変格用言の活用の誤答が多かった。「두르다 (囲む)」がㄹ変格用言であること、「신다 (載せる)」がㄷ変格用言であることを知らなかったためか。受験者にとって難しい問題であったようだ。

C 副詞、助詞、名詞、用言、語尾の組合せに関する知識を問う問題である。

問1 日本語の「いくらでも」の「でも」に当たる語尾問う問題。大変よくできていた。

問2 「一日〇食」の「食」に当たる助数詞「끼」を問う問題。半数以上は正解であったが、食という漢字の韓国語読みである「식」を選んだ者がやや多かった。韓国での生活体験がない人にとってはなじみが薄いのか少し難しかったようである。

問3 日本語の「もう」に当たる副詞を問う問題。紛らわしい選択肢があり、文意を正しく理解しなければ解答できない問題であったが、よくできていた。

問4 日本語の「見たり(～たりする)」に当たる語尾を問う問題。正答の「보거나」は6割程度だが、「보는지」を選んだ者が一定数いた。

問5 日本語の「～したまま」に当たる表現を問う問題。発音が似ていて紛らわしい選択肢が多かったが、よくできていた。

問6 日本語の「怒られた」に当たる表現を問う問題。「맞았다」が正解だが、「당했다」「받았다」を選んだ者が一定数いた。やや難しかったようである。

問7 日本語の「髪を洗った」の「洗った」に当たる韓国語を選択する問題である。大変よくできていた。

問8 日本語の「防ぐために」の「ために」に当たる韓国語を選択する問題である。正答率は7割程度で、基本的な表現であり、かつ識別力もある良問であった。

D 最も近い意味となるものを選ぶ入れ替え問題である。

問1 「-기 짝이 없다 (非常に～だ)」に最も近い意味の表現を選ばせる問題。正答率は8割弱だが、基本的な表現であり、かつ識別力もある良問であった。

問2 「그나저나 (それはそうと)」に最も近い意味の表現を選ばせる問題。正答率は8割程度と高いが、会話でよく使われる基本的な表現であり、識別力もある良問であった。

問3 「쓰는 한이 있더라도 (書くような事態になっても)」に最も近い意味の表現を選ばせる問題。やや難しい表現にもかかわらず正答率は高かった。

問4 「내렸다 그쳤다 (降ったり止んだり)」に最も近い意味になる表現を選ばせる問題。選択肢がみな一見非常に似通っていたためか大変難しかったようで、正答の「오락가락한다」を選んだのは4割程度であり、誤答の「올락 말락 한다」を選んだ者が一定数もいた。

やや難しすぎた感がある。

E 与えられた日本語を韓国語で表現する力を問う問題。適切な文法形式や語彙を選択できるか、日本語の直訳では自然な韓国語にならないということを見抜けるかを問う問題である。

問1 日本語の「気になる」に相当する韓国語を問う問題。大変よくできていた。

問2 日本語の「開けてある」に相当する韓国語を問う問題。正解の「열려 있는」を選んだのは6割程度で、「열어 있는」を選んだ誤答が非常に多かった。識別力もある良問であった。

問3 日本語の「とがっていますね」に相当する韓国語を問う問題。正答率は7割を超えたが、誤答の「땀속까지 있고 있네요」(とがりつつありますね)を選んだ者がかなりいた。識別力もある良問であった。

問4 日本語の「してほしい」に相当する韓国語の表現を問う問題。8割程度が正解していてよくできていた。

第3問 日常生活でなされる対話を念頭に置き、その流れの中で考え得る話者の自然な発話を判断させる問題を中心に作成した。日常の対話に多く用いられる語彙の理解度はもちろん、その対話における適切な表現の判断、内容全体から見た対話の流れの把握が必要である。なお、難易度も考慮してやや長めの対話文も問題に含めた。

A 短い会話文における対話の自然な流れを把握させる問題である。いずれも7割以上の正答率で、特に、問1は9割を超える正答率であった。日常でよく使われる語彙や表現で構成されていたこともあろうが、受験者のコミュニケーション能力が近年高まっているのも、高い正答率の理由と見受けられる。

B 友人同士の携帯電話のメッセージのやり取りを通じて、待ち合わせの情報やシェアサイクルの利用に関して展開する比較的長い対話とイラストについて、会話全体の流れが把握できているかどうかを問う問題であった。単語や話題自体は難しくないが、対話の流れと表現について、正確な理解を要求する。

問1は、それまでの会話の内容を把握した上で、下線部の「シェアサイクル」についての正しい説明を選ぶ問題。正答率は8割程度と高かった。

問2は、会話の流れから空欄に入る表現を選択する問題。正答率は約8割であった。誤答の②「その都度」を選択した受験者もいたが、前後の文脈を考慮せず、後ろの文のみを見て答えを選択したのではないかと思われる。

問3は、本文の内容を正しく読み取って選択する問題。正答率は8割を超える程度であった。

C 大学生になったソンホが高校の恩師を訪ねた場面で展開する比較的長い対話について、文脈を正しく理解し、正答を導く問題であった。全体的に高い正答率であったが、高校の職員室や部活動という話題が多く受験者にとってなじみがあったことも一因と考えられる。

問1は、「～するついでに」という文法事項を把握した上で、会話の流れを考慮し、空欄に入る発話を選択する問題。正答率は9割程度で高かった。

問2は、空欄に入る発話を選択する問題。空欄の後に続く先生の反応から正答を推測する問題である。正答率は8割程度で高かった。

問3は、本文の内容を正しく読み取って選択する問題。正答率は高く8割程度であった。

第4問 「停電の案内」という案内文を読み、その内容理解を問う問題である。問1は、マンションの入居者が子どもの携帯電話に送ったメッセージのうち案内文の内容と一致しないもの

を選ぶ問題であり、「点検の進行状況によって停電時間が延びることがある」と案内文にあるので、②が正答となる。④を選んだ解答が見られたが、案内文に「電気製品が故障することがある」とあるため、誤答となる。問2は本文の内容と一致するものを選ぶ問題であり、案内文に「その他のお問い合わせは、管理事務所（02-1234-5678）にご連絡ください」とあるため①が正答となる。両問ともに正答率は高かった。

第5問 筆者が大学時代ハングル教室で働いていた時の思い出を書いたエッセイを読み、その間に起こった出来事や登場する人々の気持ちなどを読み取る問題である。問3は下線部④のようになった理由として本文から読み取れないものを選ぶ問題であり、「発表をすることが恥ずかしい」というのは、おばあさんたちの泣く理由として考えられないため②が正答となる。おばあさんたちの気持ちを本文から読み取る問題であったが、正答率は8割を超えた。問5は本文の内容と一致するものを選ぶ問題であり、「大学卒業を控えていた私は、ソウルのとあるハングル教室で講師をしていたことがある」と本文にあるため①が正答となる。④を選んだ解答が見られたが、本文に「以前塾で教えていた」とあるため誤答となる。第5問は全体的に正答率が高かったが、この問5は正答率がやや伸び悩んだ。

第6問 インドの思想家・独立運動家であるガンディーの思想に対する筆者の解釈を述べた文章であり、論理的な文章の内容を正確に読み取る問題である。問1は、本文の内容や展開の説明として最も適当なものを選ぶ問題であり、本文はガンディーの非暴力主義と糸車の関係、その現代的な意味に対する筆者の理解を述べている文章であるため④が正答となる。本文全体を通読して答える必要がある問題であったが、正答率は7割を超えた。問4は下線部⑨の内容として適当でないものを選ぶ問題であり、本文で言及されていない①が正答となる。③を選んだ解答が見られたが、本文に「産業社会の複雑で巨大な機械が、支配と被支配の構造、都市化、そして浪費性消費をもたらす」とあるため誤答である。第6問は例年に比べ全体的に正答率が伸び、受験者たちの健闘が見られた。論理的な文章を読み取る力が磨かれてきているものと評価することができよう。

### 3 ま と め

昨年度、即ち平成31年度の試験に対する高校教員からの評価では、問題の難易度が高く、長文の分量が多いことによって、平均点が英語並みに低いことが問題点として挙げられていた。本年度の問題はその点の改善を目指した結果、平均点は147.50点となり、ドイツ語とほぼ同程度で、英語以外の外国語の中では平均的な点数となった。平均点が英語に近づくのはある意味では理想ではあるが、受験者数、及び受験者の層を考えると、どの程度の平均点を目指すべきかについては問題があり、今後「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の受験者を増やしていくためには当面、本年度程度の平均点を維持していくことが望ましいと考える。

次に、高校教員から指摘されている幾つかの問題点について問題作成部会としての見解を述べる。まず、語彙や文法の知識のみを問う問題は望ましくないとされている点については、バランスの取れた韓国語の能力を見るためには、このような形式の問題を部分的に含むのが試験の識別力を見る上で有効であるというのが歴代の問題作成部会の見解であり、本年度もそれを踏襲している。今後は、大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）への移行に伴い、高校教員からの意見を参考にしつつ、更に検討し改善すべき点は改善するのが望ましいと考える。また、「学習範囲内の語彙」が用いられている点についても幾つか指摘がなされているが、学習範囲外であっても文脈上類推が可能なものはある程度使用可能と考える。ただし、文脈が与えられない状況で、それ自体を知識として問う問題は確かに問題点になり得る。この点も共通テストの作題において検討課題

とするのが望ましい。また、今年度は長文問題の一部の題材が「韓国語」の問題としてふさわしいかどうかという問題が提起されているが、当部会としては、大学入学を目指す学生のための試験問題としてこの程度の長文が不適當であるとは考えていない。題材以外に、表現の難解さも挙げられているが、大学入試のための論説文としてこの程度の難易度は問題ないと考えている。

今年度はセンター試験として最後の年度に当たっている。以上のように様々な課題が存在するが、その中には従来より常々指摘され続けた課題も含まれ、それらは共通テストへの移行を契機として、問題の形式、内容、難易度などあらゆる面において再検討すべきであろう。その中で、近年外国語の試験で強調されるコミュニケーション能力、思考力については、「韓国語」の場合、今年度の第3問、第4問などにおいて、すでにその方向へ一歩進み出した問題を出題しているが、今後さらに様々な状況設定に応じたコミュニケーション能力を見るための問題作成のために努力すべきであろう。